



カゲロウの羽化を見た！ 川むしたんけん隊

5月29日(日曜日)午前10時に「だいや川公園駐車場」に集合。まだ造成工事の痕が残る県西公園を横切って大谷川へ。年で反応が鈍くなっているのに無理をして堤防を滑り降りたら、しっかり腕に擦り傷ができていました…。ともかく川に降りて、川虫採集を開始。昨年に行川で多数みつかった、ウズムシ、ヘビトンボなどは見つかりませんでした。カワゲラは貴重な1匹をA君がつかまえたのですが、私が皿に入れて運ぶ途中、川に落としてしまったのです。

そのかわり、たくさん捕まえることができたのはカゲロウの幼虫でした。白い発泡スチロールの箱に、「佃煮ができるねえ」というくらい集まりました。そうこうしているうち、その中の1匹が水中から出てきました。水面から5センチくらいのところに止まると、みるみるうちに背中が割れ、トンボのような成虫が顔を出しました。そして前足でゆっくりとせり上がりながら羽を広げ、気がつくとも成虫の全身が姿をあらわしているではありませんか。この間、10分足らず。初めて見るカゲロウの羽化でした。

ちょっと休んで、すぐにカゲロウは飛んでいきました。「ああやって飛び上がってしまうと、もう、自分が水の中にいたことを忘れていたんだろうね」といさっきまでエラで呼吸していた生き物が、もう空を飛んでいる不思議さ。

昼食を食べる間も数匹が羽化し、子どもたちはしっかり観察していました。午後は管理事務所の研修室で、川虫を顕微鏡で観察したり分類したりしました。その結果、大谷川に「まあまあきれいな水」という評価を下しました。5月最後の日曜日、他団体の行事と重なってしまったようで、子どもたちの参加が少なかったのが残念でしたが、意義のある「川むしたんけん」でした。(手塚)



脱皮して亜成虫になった
モンカゲロウ
少し羽を休めて
飛んでいきました

目次:

川むしたんけん隊 1

ゆったりウォーク 2
寂光沢源流探検

事務局より 2
活動日誌

水郷水都全国会議 3
- 久留米大会報告

「鹿沼のダム」 4
ホームページ



日差しも適度な薄曇り、「川むし日和」でした(右上)
ふむふむ、こうやって成虫になるのか(右下)
大きなカジカが取れました(左、下)



事務局より・活動日誌

4月2日(土)流域の会・定例会参加
4月15日(土)寂光沢下見
4月24日(日)ゆったりウォーク・源流探検
5月7日(土)流域の会・定例会参加
5月14日(土)定例会(県西公園・みどりの相談所)
5月29日(日)川むしたんけん隊(県西公園付近の大谷川)
6月4日(土)流域の会・定例会参加



ゆったりウォーク・源流探検 (寂光沢源流) 4月24日(日)

寂光沢の上流部へは、車であれば寂光の滝の駐車場まで入れるので誰でも簡単に近づくことができる。だが源流へと至る道は、それほどの距離でもないのに、これまで奇跡的に一般に知られず、あまり歩かれていなかった。

最近、このコースが、県内では良く知られるハイキングのガイドブックの新版で紹介された。このため今後、一般的に歩かれるようになる事態が予想され、そうなる前の、まだ、余り人が入っていない状態を見ておきたいとの声が定例会でも出された。これが今回のゆったりウォーク実施の動機の一つである。

当日は晴天に恵まれ、近くの山々の上部には赤ヤシオが見え隠れし、また足元ではカタクリが目を楽しませてくれた。コースは沢といっても傾斜もそれほどでなく、一部に、滑りやすく、気の許せない箇所もあるが、流れの脇の土の上を歩くことができる。また珍しく、砂防堰堤なども作られていないので、すばらしい自然を堪能することができた。

そのあたりのことは私が書くよりも、当日参加されたFさんからいただいたメールが適切に表現されているので以下に引用させていただきます。

『清らかな水の流れ、緑の苔むした岩、そのコントラストがとても美しかったです。手つかずの源流は、もののけ姫のシシ神の住まいを思わせるような場所で、神聖な感じがしました。山の神々がつどい宴をする場所のような気がしました。山岳信仰の一端も見ることが出来、可憐なカタクリの花や赤ヤシオも楽しめ、変化に富み楽しい山歩きでした』

ただ、一部、源流地間近の左岸で、土砂崩れのようになって下草もろとも削り取られている箇所があり、今後どうなっていくのか、すこし気にかかった。また、鹿の食害を受けている木もかなり多く見受けられた。

参加された方は日ごろ山歩きなどをされている方が大半であったが、絶対に事故を起こさないことを念頭に置いたことや、スタッフの力不足もあって説明も十分にできず、ただ歩くのが精一杯の、余裕のないウォークとなってしまった嫌いがあるが、そこはご容赦いただきたいと思う。これから行楽シーズンになり、大勢のハイカーがこの地を訪れることも予想される。ごみを落としていくなどという行為は論外としても、生理現象としての糞尿の処理など良識に任せておいただけでよいのだろうか？とりあえず、今回参加された皆さんには、次回この澤に行かれる際も節度とモラルを保った行動をお願いしておきたい。

(森)



水郷水都全国会議 - 久留米大会 - から

小さな田が丹念に耕され、緑の中に静かに時を刻んでいる山間部の棚田の姿にはいつも心奪われてしまうが、見渡す限りの平野に整然と広がっている水田風景にもまた、その広大さに圧倒され、そしてゆったりとした気持ちに満たされる事がある。長崎本線の車窓から佐賀平野を見た時、そんな思いを強く感じた。

第21回水郷水都全国会議は、6月11・12日に九州の久留米で開催された。今大会のメッセージは『公共事業「新」時代 - 自然とのおりあいを求めて』というもの。九州は過去に水俣病問題があり、最近では有明海再生事業や川辺川ダム問題など、「公共事業のあり方をめぐって考えたい題材がいっぱいある。」(事務局) 地域だ。ともあれ年1回の会議は全国の事例や経過報告の発表があり、また各地で頑張っている市民グループとの情報交換など、大きく力づけられるものがある。会場となった久留米大学には各地のグループ紹介がなされ、長野県大町のグループが写真展示したのものにはその用水発電に協力した当会の名前も載っていた。

今回、記念講演は原田 正純氏の「水俣から いのちのメッセージ」、基調報告は 「差し止め運動から再生の運動へ」(有明海訴訟) - 馬奈木 昭雄氏、「川辺川ダムをめぐる闘いの現状と住民決定の時代」 - 板井 優氏、「佐賀平野における河川伝統技術」 - 岸原 信義氏 によってなされ、分科会は次のように8に及んだ。

港湾埋立問題 歴史に学ぶ 水みち・掘割
循環型・水と農 循環型・社会システムを考える
川辺川 公共事業「新」時代 ダム・水道を考える
特別分科会 「筑後川フェスタ、拡大コンセンサス会議」、栃木からは「思川開発事業を考える流域の会」の

葛谷さんが の分科会でムダな南摩ダムについて報告をした。

私は の分科会に参加した。今市では江戸末期に二宮尊徳の用水事業が行われたが、佐賀では江戸初期に鍋島藩家老の成富兵庫茂安という人物によって、洪水と干害を一緒に防ぐ土木工事が広く行われていたことを初めて知った。「廻水路 - かいすいる」という言い方も江戸期に生まれたという。今で言うバイパスのことらしい。藩を互いに競わせて300年を継続させた幕府のしたたかさと、江戸時代の土木技術の斬新さに深く目を開かせられた。

国を治めることは水を治めること、と言うが、新たに国土を切り刻む時代はもうとくに終わっていると思う。歴史から何を学ぶか - それは自然の力を巧みに利用し、治水してきた江戸時代をもっと注目する必要があるということ。先人達の知恵を学び、そこから応用していくのがこれからの公共事業のあり方だろう。見なおしを進めていって欲しい公共事業は全国にまだまだ溢れている。

(塚崎庸子) 水郷水都全国会議 <http://www.sui-sui.sakura.ne.jp>

DVD上映会(無料)

ムダなダムの実例紹介

7月6日(水) 11:00 ~ 弁護士会館 (宇都宮)

奈良県吉野川上流の大滝ダムは平成15年3月の完成後、相次ぐ欠陥発覚で貯水できなくなっています。こんな大きなムダ遣いをしていいのでしょうか? DVDで確認しましょう。

ゆったりウォーク・源流探検 写真集



(上) ヤシオツツジ、カタクリがきれいでした
(下) 水源地



(上) 寂光沢沿いに歩く

(右) 聖天岩の下から
しみ出す水。
ここがほんとうの
源流かも...



「鹿沼のダム」 ホームページの紹介

<http://damhantaikanuma.web.infoseek.co.jp/>

「ダム反対鹿沼市民協議会」(会長:広田義一さん)のホームページです。鹿沼市の人口、水道事業などを通じた水需要の分析、南摩ダム、いちおうは建設中止となった東大芦ダム関連の話題やデータが数多く掲載されていますので、ぜひ訪れてはいかがでしょうか。

連絡先

〒321-1102 今市市板橋1732-1 森 方
今市の水を守る市民の会

郵便振替口座

00140-4-535550

0288-27-2183 (8時~17時:森)

0288-26-3324 (17時~21時:塚崎)

<http://www.somesing.net/daiyagawa/>



「鹿沼市の特徴」より

栃木県鹿沼市は、川の多い市です。市内には、武子川、行川、黒川、大芦川、荒井川、南摩川、小藪川など、多くの川が流れています。特に黒川と大芦川は、多くの観光客や釣り客を集める清流であり、鹿沼市の大きな魅力となっています。第4次鹿沼市総合計画(計画期間1996-2010)には、次のように書かれています。「本市の河川は利根川水系に属し、1級河川(県管理など)が17本、準用河川(市管理)が2本、小河川(普通河川)が676本あります。市内を流れる1級河川は治水上比較的安全な河川であり、良好な水辺空間が随所に見られます。」(p80)「本市は、313.3平方kmの広い大地と美しい自然に恵まれています。市域の60%を山林が占め、特に、西北部には、日光に続く奥深い山々が連なり、そこを源流として、県内で最もきれいな川の一つである大芦川をはじめ、黒川、荒井川、南摩川などの清流が走り、私たちに憩いとやすらぎの場を提供しています。(略)また、災害も少なく穏やかな気候に恵まれています。」(p14)したがって、市内の清流を失うことは、鹿沼市の個性や財産を失うことでもあります。

編集後記

今春、「システムサイエンス宇都宮専門学校」が「菜の花別科」というコースを立ち上げました。全国に広がりつつある「菜の花プロジェクト」をベースに、環境、リサイクル、エネルギー問題などを学ぶ中卒以上を対象とした新しい学科です。縁あって、月に一度、私とミニ水力発電などの実践を行っている中島さんが講師を務めることになりました。学生さんはまだ数人。立ち上がったばかりのささやかな教室で、中島さんは自分の経験と実践を生かした自然エネルギーについて、私は「エネルギーとは何か」ということで、物理学の基礎講義をやっています。5月は杉並木公園に来てもらい、午前は水車などの施設を見学しながら自然からエネルギーを取り出すにはどんな方法があるかといった話、午後は中島さん宅に設置された発電設備などの見学を行いました。現在の消費型社会から循環型社会への転換は、大量消費・環境汚染の親玉である「戦争」を無くすことも含めて、そんなに簡単なことではありません。それでも、こんな小さな動きが新しい人を作り、考え方を転換するきっかけになるとしたら、すばらしいことだと思います。(手塚)